

私のワクワク、ドキッ☆。(♡▽♡)ワーク、ワーク

～女と男のキャリア再発見～

講師 交流分析士教授 廣瀬 一郎

私たちは仕事を通して自分を表現したいという欲求を持っています。それが満たされなかったり、『男だから、女だからこのように働かなければならない』という思い込みにとらわれていたりすると、十分に能力を発揮することができず、不自由さを感じるようになってしまいます。現在働いている方々がより意欲的に生き生きと働いていくために、働くこと、仕事に関する様々な思いについて、交流分析の理論とワークショップを通して理解し合う、という内容でした。

12名のご参加者全員が一つのグループとして輪になり、行政書士、助産師、税理士、マナー講師という、男女4名の方々に、ご自身のこれまでのキャリア形成について発表していただきました。皆様それぞれがご自身の山あり谷ありの道のりや挫折経験、ターニングポイントなどを惜しみなく開示され、まさに“ワクワク、ドキドキ”大いに刺激を受けながらお話を伺うことができました。印象的だったのは、4名の方々いずれも『男だから、女だからこのように働かなければならない』という思い込みは持たれておらず、ごく自然に仕事も家事も子育てなどもこなされてきた、ということ。ご参加者の男性もまたお話を伺うとイクメンでいらっしゃいました。

その後ファシリテーターの進行のもと、発表に対する感想や質問を出し合ったり、ワークシートに沿って自分の今までのキャリアと向き合ったり。最後は自分が希望する“これからのキャリア”を語り合い、少人数ながら積極的で有意義なワークショップとなりました。



【参加者の声】

- ・仕事に関しては少しずつ「限界」を外して来れたと思うが、プライベート、子育てについても「限界」を突破したい。
- ・今日は普段思ってる事を項目別を書くことによって自分の位置、心の整理が出来たことは何でもない小さい事のようにイヤイヤ大きかったです。
- ・子どもがやりたい仕事を見つけるためにできることは何か考えないといけないと思います。
- ・人生そのもの考えると、キャリアって深いと思いました。働くだけではないという気付きに。
- ・これからは自分の意志を強く持ち、恐れず前に一歩を踏み出し脚本を抜け出したいを思った。